

## 第 48 回ドルンビルン化繊会議の概況

ドルンビルン化繊会議 (Dornbirn Man-Made Fibers Congress) は、化学繊維の技術関係のテーマを中心とする国際会議 (オーストリア化繊協会主催、欧州化繊協会後援) で、欧州繊維産業の産学研究者の交流の場とすることを目的に 1962 年に第 1 回目を開催以降、毎年オーストリア・ドルンビルンで開催されている。

### 1. 本年度ドルンビルン化繊会議の概況

本年度ドルンビルン化繊会議(第 48 回)が 9 月 16~18 日に開催された。

参加者は、3 日間で 540 名。厳しい経済環境下、前回比 2 割減となったが、会議自体は討議が活発であることなど、例年通り盛況であった。参加者が多いのは、ドイツ、地元のオーストリア、スイスなどで、アジアからは、日本から 10 名、中国 6 名、インドネシア 3 名、台湾 2 名の参加があった。

### 2. 本年度ドルンビルン化繊会議のテーマ

ドルンビルン化繊会議では、毎年、いくつかのテーマを設定し、テーマ毎に分かれて発表・討議が行われる。本年度の発表件数は計 104 件、ドイツが全体の 4 割強で最も多く、以下オーストリア、スイス、ベルギーの順。日本からは 4 件の発表があった。本年度会議のテーマ概要を下表に示す。

本年度会議のテーマ概要

テーマ	発表概要
新規ファイバーの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種機能性繊維・テキスタイル技術</li> <li>ナノファイバー、ナノ加工技術</li> <li>複合機能化</li> </ul>
医療衛材用テキスタイルの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療衛材用テキスタイル</li> <li>スマートテキスタイル</li> </ul>
移動体用等の複合材料の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種複合材及び安全用途向けファブリック</li> <li>車両用、FRC 用等における繊維素材の挙動解析</li> </ul>
特殊服用ファイバーの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>耐炎、難燃、遮熱防護服用テキスタイル</li> <li>特殊服用テキスタイル</li> </ul>
気候変動問題に対応したテキスタイルの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>水処理用テキスタイル</li> <li>緑化用テキスタイル</li> <li>農業用テキスタイル</li> </ul>

EU 研究開発プロジェクトの報告	・EU の研究支援を受けて実施した研究プロジェクトの報告
------------------	------------------------------

「新規ファイバーの開発」では、各種の機能性繊維やテキスタイル技術の開発、ナノファイバーやナノ加工技術などについて発表があった。「医療衛材用テキスタイルの開発」では、傷口の保護や治癒を促進する繊維、再生医療用の繊維、導電性繊維を利用した保温や人体への電氣的刺激など、メディカル関係の新しいテキスタイルが紹介された。

「移動体用等の複合材料の開発」では、移動体や安全用途向け複合材料の開発や、車両用・コンクリート補強用途における各種繊維素材についての発表があった。「特殊服用ファイバーの開発」では、耐炎又は難燃繊維を使用した防護服用テキスタイルや、太陽光を電気エネルギーに変換する光起電性テキスタイルなどの研究事例、「気候変動問題に対応したテキスタイルの開発」では、水処理用、緑化用、並びに農業用等のテキスタイルの開発、及びリサイクル技術に関する発表があった。

「EU 研究開発プロジェクト」では、EU 政府の研究支援を受けて実施された研究プロジェクトの成果報告があった。

### 3. 欧州繊維研究開発の特徴

まず、テクニカルテキスタイル（ハイテクや機能をベースとしたテキスタイル）の開発が中心で、そのような新しいテキスタイルの開発は、素材開発ではなく、加工技術からのアプローチに軸足がおかれていることが欧州の特徴として挙げられる。

次に、大学や研究機関での繊維研究が活発であるということである。ドイツをはじめ、スイスやベルギー等の国立研究所や地方の研究機関では、出口（実商品化）に近いところでの繊維開発が活発に行われており、今回の会議でも多くの報告があった。また、これらの研究機関が中心となって、複数の繊維企業が集まり、EU 等の支援を受けて実施する産官学共同研究も活発に行われている。

次回開催は、2010 年 9 月 15 日～17 日で、「車両用テキスタイル」や「不織布」などのテーマが予定されている。

（担当：技術グループ 大松沢）

海外速報 No.842 / 2009 年 12 月 20 日